

67年の歴史に幕

大崎中学校閉校式

大崎中学校（中山春年校長、生徒数239名）の閉校式が3月15日（土）に開催され、地元住民や関東などから、卒業生約400名が出席しました。

昭和22年5月に生徒数845名で開校（昭和47年、大崎第一中学校持留教場の一部を統合）以来、13、264名の卒業生を送り出した大崎中学校。昭和37年には1、207名の生徒が在籍していましたが、近年の少子化の影響もあり、現在の生徒数は239名まで減少し、3月末をもって67年の歴史に幕をおろすことになりました。

同校は、校訓である四つの鐘『自主性・協力性・科学性・永続性』の精神で、勉学や部活動はもちろんのこと、文化活動にも積極的に取り組んできました。部活動では、軟式野球や剣道、陸上、軟式テニス、バレーボールなどが盛んで県大会優勝だけでなく、九州・全国大会出場と優秀な成績を残しました。また、同校からは5名のプロ野球選手を輩出するなど『スポーツの盛んな学校』としても知られました。文化活動では、県の吹奏楽コンクールや音楽コンクールにおいて、何度も最高評価である『金賞』を受賞し、福祉作文コンクールにおいても『学校賞』を受賞するなど、文武両道の『大中魂』は今後、新生『大崎中学校』へ引き継が

れ、新しい校風が築かれていくこととなります。

閉校式では、PTAを代表して福留利郎さんが「PTA活動を通して感じたことがあります。『何か困ったことがあると親がすぐ協力してくれる』ということです。おそらく誰が教えるではなく、自然と定着した伝統のようなものだと思います。この精神を4月に誕生する新生『大崎中学校』にも引き継いで欲しいと思います。」と話され、最後の校長となった中山校長は「閉校になることは大変寂しいことであります。しかしながら、私たちは閉校を未来へ繋がる一つの節目と考え、さらなる発展に繋がる新しい歴史であるにとらえていきたい。」と話されました。また、生徒代表の安田泰智くんが、「菱田中・大崎第一中・大崎中と三校統合して、今のままでうまくいかない部分があるかもしれない。そういうときに『どうせ誰かがしてくれる』という考え方ではなく、自分自身が自ら考えて実行するのです。三校が統合して私たちに一番必要なのは『熱意』ではないでしょうか。『大中魂』はいつまでも卒業生の心の中に残り続けます。輝ける大崎中学校は永久に不滅なのです。」と述べていました。その後、校旗が生徒から校長そして町長へと返納されました。

